

令和元年度小松市立松東中学校 学校評価（年度末）

めざす児童生徒像

- ・前向きに取り組む生徒
- ・思いやりをもち、優しい心で接する生徒
- ・考えをはっきり伝える生徒

※児童生徒達結果－教員結果・保護者結果

		中間				年度末								
目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目				※差	達成状況の分析				改善策		
			数値・アンケート結果 (%)	教員	児童生徒	保護者		数値・アンケート結果 (%)	教員	児童生徒	保護者			
(学校で設定)	学校重点項目 家庭や地域との連携による家庭学習の充実	学力向上	①	定期テスト・学力テストでの基本問題の正答率	76				77				①について基本問題の正答率は目標指標を達成した。1年生において基礎基本の学力の定着が不十分な生徒がいるので支援が必要である。 ②について家庭学習は中間評価より上昇したが、目標指数を下回った。3年生が改善したが、1、2年生が少ない傾向にある。	・基礎学力の定着が不十分な生徒に対し、支援のあり方について研修を行い、個別支援の充実を図る。 ・「みどりノート」で家庭での時間の使い方について見直しをさせ、学習時間の確保を図る。
			②	学校授業以外に平日1日に勉強する時間が2時間以上	20				29					
集計														
目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目								達成状況の分析	改善策		
重点項目 石川県共通	業務の改善 働き方や組織的な学校運営	①②の肯定的な回答を80%にする	①	校務分掌や業務の整理・統合が図られており、業務の平準化がなされている。	75				92			業務の平準化についてはかなり改善され、分担を意識し進めることができた。また勤務時間を意識するようになり、冬季の部活動時間との関連もあって時間外勤務もかなり減少している。	業務の平準化については分掌の中でも教務・生徒指導に関してはもう少し分担を考えられると思う。来年度途中で学校を移転することもあり、業務効率化の面でも新しい職員室での導線や施設の使い方などをしっかり計画的に進めていかなければならない。	
			②	教職員は勤務時間を意識し、能率の良い業務改善に努めている	83				92					

目標		項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目				数値・アンケート結果(%)		※差	数値・アンケート結果(%)		※差	達成状況の分析	改善策				
				教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒		保護者								
小松市共通重点項目	学校研究	①②③とも教職員アンケートで肯定的に答えた教員の割合が90%以上	①	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	82				83				②③は肯定的に答えた教員が90%以上であったが、①は83%であり、目標を達成できなかった。講師を招聘する機会がなかったことが原因であると思われる。道徳を中心に据えて校内研究を行っている。研究授業・公開授業を年間計画通りに行うことができた。また小中連携では、本校教員が松東みどり学園小学部の授業にT2として参加する実践を初めて行った。	道徳の授業の評価は今年度始まったばかりであり、今後も評価につながるワークシートを工夫していかなければならない。また小中連携は、再来年度の義務教育学校開校に向けて、今年度と同様の授業参加型の実践を積み重ねていかなければならない。講師の招聘は来年度の課題である。					
			②	研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	100				92										
			③	教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	91				83										
	集計																		
	指導力の向上	授業	①②③④⑤とも生徒アンケートで肯定的に答えた生徒の割合が前期80%、後期90%以上	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	92	91		-1	92	96	4	・②と④の項目において、教師と生徒との差違が大きい。②については、教師が感じている以上に生徒は話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりしていると感じているようである。④の〈記述力〉は、生徒が自分の考えがうまく伝わるよう工夫して書いていると答えた教師は100%であり、生徒の実感とのずれが10ポイントある。 ・⑤の振り返る活動は、教師・生徒ともに80%台であり、目標を達成することができなかった。今年度強化していきたいことと年度当初に確認した項目であり、引き続き課題である。	・授業の最初に課題の提示を丁寧に行う。教員と生徒が課題の内容、到達目標を共有し、十分理解したうえで取り組みに入る。 ・授業の終末に、本時の目標が達成できたのかを、まとめたり振り返ったりしていくことをどの授業でも継続していかなければならない。					
				②	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	91	86		-5	83	93	10							
				③	(発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	80	76		-4	92	84	-8							
				④	(記述力) 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	90	82		-8	100	90	-10							
				⑤	児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。	100	88		-12	83	87	4							
				⑥	児童生徒は、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	90	91		1	100	93	-7							
				集計															
				学力の定着	学力調査	①②③についての取り組みの実践・検証率での達成率90%以上	①	学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	90						92			②については、学力向上ロードマップの年度当初の計画を実施しているが、それぞれの実施内容が学力向上ロードマップにどのように位置づけられているのか、という点が先生方に十分に浸透していなかった。 ③については、年度後半は今年度は教員の授業交流や児童生徒の交流に力をおいたため、数値が下がっていると考えられる。	・学力向上ロードマップについては、PDCAサイクルを委員会などで定期的に検証し、ロードマップをもとに学力を向上させているという意識を先生方に持たせる。 ・小中が統合するにあたって学力調査の結果を共に分析し、共通して課題となることについて共通実践を行う。
							②	学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	73						73				
③							近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)	92				75							
集計																			
家庭学習	①②について、それぞれの学年で設定された時間・内容について生徒・教員・保護者とも達成率80%以上	①	自分で計画を立てて勉強している（3年以上）		92	77		-15	92	76	-16	①中間評価と大きく数値が変わるには至らなかった。生徒に学習計画の有用性がまだ感じられていないと考えられる。	・「みどりノート」を活用し、日常から時間の使い方について考えさせ、計画的に学習を進めるよう指導する。 ・定期テスト前や休暇前に学習の計画を立てさせ、保護者や教員が定期的に点検・評価し、継続できるようにアドバイスを送るようにする。						
		②	児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている		100				100										
		集計																	